

1. 2019 (令和元) 年度 事業ならびに活動計画

2019 年度事業ならびに活動計画

特定非営利活動法人 安全工学会

1. 事業活動方針

産業に関わる安全の諸問題を広く工学的に調査・研究し、各種災害の防止のための知識・技術の向上及び普及を図るため、特に、安全及び安全教育にかかわる議論を活発に行い、安全工学の普及活動に注力する。

2019 年度は、これまでの様々な会議体で得られた 6 つの要点(教育、継続的ビジョンの見直し&設定(システム)、研究会企画、防災と安全工学、化学プロセス安全、学会収支(即ち社会貢献))に対して、具体的な活動を進め、あわせて 2018 年度掲げた、以下、4 つの目標に向かって、具体的な行動を立ち上げる。

- ・AI、IoT における事故
- ・変化する天災対応と予測
- ・ますます複雑化する人間行動
- ・企業における安全プロ、リーダーの育成と役割向上(CSO の提唱)

2018 年度は、企画委員会を軸に、これらを踏まえて、行動の優先順位とマイルストーンの検討を開始した。並行して、60 周年記念事業の若手を中心とした「学会の 10 年のビジョンを考える動き」から生まれた「安全工学会将来構想委員会」が、学会のあるべき姿をまとめる作業を開始した。

2019 年度は、将来構想と、行動の優先順位を調和し、具体的な企画を完成し、マイルストーンを定め、実際の行動に結びつける年とする。実体としては、新たな研究部会、研究会、などの立ち上げを目指す。

また 2018 年度は、「2018 Process Safety Symposium 岡山大会」を開催し、安全工学研究発表会を合わせ、産・学・官を包括した安全工学の普及、情報交換、啓蒙の場を演出した。2019 年度も同規模のシンポジウムの開催を企画し、継続、定着することを目指す。

2018 年度は、奨励賞を研究発表会当日に選考し、懇親会で表彰状を授与した。2019 年度は、さらに、学会賞、特に奨励賞に工夫を凝らして、会員の学術、技術を奨励することに努力する。

学会の様々な動きを具現化する一つの方法が、研究会の立ち上げと成果の獲

得、発表であるが、上記の学会のあるべき姿に係る動きに併せ、会員の自発的な意思に基づく研究会などの活動を奨励・支援する。これまでに規則規定面での整備を終えており、具体的な活動を始める。

学会の普及啓発活動については、年間のスケジュールに従い、進めている。2019 年度も例年通りの活動をもととする。開催の情宣、PR活動については、これまでも関係学協会や工業協会との連携を図っているが、参加人数が伸び悩んでいることも事実である。今後、一歩進んで、他学会との共同企画の推進なども、横串学会の真価を発揮すべく、模索してゆく。

安全工学会誌の論文発表は、会員の研究成果の発表の場として、また学会からの知識・情報の発信の場として、重要な役割を果たしているが、発表論文数の伸び悩みが課題となっている。一方、「安全工学」を軸に、非常に幅広い分野の論文を受け入れており、この点は稀有な存在といえる。新たな英文論文誌(電子ジャーナル)の立ち上げの可能性の検討を開始する。

2. 事業内容 特定非営利活動に係る事業

2.1 安全工学に関する研究・教育事業

① 安全工学に関する研究

学術委員会を中心に安全及び安全教育に関し検討を進め、普及、啓発活動に注力する。研究会活動の活性化、再構築に努力する。

② 安全工学シンポジウム 2019

安全工学を軸とした、横断的な研究発表会への参加(OS:「RBSM(Risk Based Safety Management)の紹介と産業界での実施、展開」、PD:「安全活動と人材育成」、他)。

開催月日:2019 年 7 月 3 日(水)～5 日(金)

開催場所:日本学術会議

参加予定者:550 名

主催:日本学術会議

幹事学会:日本機械学会

共催:安全工学会ほか 31 学協会(予定)

③ 安全工学研究発表会(第 52 回)

安全工学会を軸とした、安全工学研究成果の発表会を主催する。

開催月日:2019 年 11 月 28 日(木)～29 日(金)

開催場所:アオーレ長岡(新潟県長岡市)

参加予定者:200 名

④ 研究・教育事業管理

対象委員会・研究会	
学術委員会	3-4 回
安全工学研究発表実行委員会	1-2 回
医療安全研究会	6 回
新規研究会の立ち上げ	

2.2 安全工学に関する普及啓発事業

2.2.1 一般普及事業

(1) 会誌“安全工学”

①発行 印刷物の発行 年 6 回

②電子化推進

J-stage の公開 2016 年 6 月発行分～実施済み、逐次更新

J-stage 公開の推進(過去の掲載については作業終了)

(2) 講習会・セミナー

①第 41 回安全工学セミナー

物質危険性講座 2019 年 9 月 5 日(木)～6 日(金)

危険現象講座 2019 年 10 月 1 日(火)～2 日(水)

プラント安全講座 2019 年 11 月 14 日(木)～15 日(金)

安全マネジメント講座 2020 年 1 月 27 日(月)～28 日(火)

実施予定場所 化学会館会議室、又は機械振興会館会議室

参加募集人員 各回 30 人

②第 18 回安全工学地域セミナー

開催月日 2019 年 5 月 17 日(金)

実施予定場所 新コスモス電機株式会社(兵庫県)

参加募集人員 30 人

③第 33 回安全管理の最新動向講習会

開催月日 2019 年 7 月 29 日(月)～30 日(火)

実施予定場所 化学会館会議室

参加募集人員 30 人

④第 18 回安全工学実験講座

開催月日 1 回 2019 年 6 月 13 日(木)～14 日(金)

実施予定場所 日本カーリット(株)

参加募集人員 20 人

⑤災害事例研究会

開催月日 2 回 2019 年 12 月中旬予定

実施予定場所 化学会館

参加予定人員 各回 60 人

⑥地域・企業支援セミナー

日本全国の地域・企業への講師の派遣 2～4 件程度

⑦安全教育セミナー

安全教育担当向けセミナーの継続開催の推進

開催 月日: 2020 年 2 月 27 日(木)～28 日(金)

開催 場所: 三井化学株式会社 茂原分工場

参加予定者: 20 人

⑧工場長懇談会の定期的開催

石化協と共催による地域毎の工場長・環境安全部長との懇談会推進

⑨普及啓発事業管理

・対象委員会・研究会等

編集委員会 12 回

普及委員会 4 回

・会誌への広告募集管理

(3) 図書販売・会誌の年間購読販売

法人事務所にて図書販売等を実施する。

2.2.2 普及啓発事業: 受託事業

経済産業省の新規事業に注目し、受託事業管理委員会管理下、対応可否を検討する。

2.3 安全工学に関する調査及び情報収集提供事業

ホームページを充実させ、会員への情報提供を推進する他、意見交換システムの検討を行う。また、非会員へのPRを推進する。

2.4 安全工学研究の奨励及び研究活動等の表彰

学会賞授与 安全工学に貢献した優秀論文、功労者を表彰する。以下の賞を含め、賞の内容、審査決定時期、形態について見直しを行う。

対象: 安全工学論文賞(2 件以内)、玉置功労賞(2 名以内)、北川学術賞(2 名以内)、奨励賞(2 名以内／研究発表会での決定・表彰について検討する)

2.5 安全工学に関連する国内外の団体との連携及び協力

安全工学に関連する学協会に加入し、情報を得ると共に安全工学の発展のために協業を模索する。国際的には、APASES(Asia Pacific Association of Safety Engineering Societies, アジア太平洋安全工学学協会連合)に参加(継続)、APSS、CCPS との情報交換を継続、発展させる。

①諸会費

(社)日本工学会、高圧ガス保安協会、防災学術連携体などに会員として加入(継続)

②安全工学シンポジウム 2019 他

③防災学術連携体への参加を継続し、接点を模索する。

2.6 管理業務

①総 会 1 回開催

開催月日:2019 年 5 月 31 日(金)

開催場所:化学会館

②理事会 4 回開催

開催月日:2019 年 5 月 10 日(金)

2019 年 7 月 12 日(金)

2019 年 11 月(調整中)

2020 年 3 月(調整中)

③評議員会 1 回開催

開催月日:2019 年 5 月 31 日(金)

④監事会 1 回開催

開催月日:2019 年 4 月 23 日(火)

⑤委員会

総務委員会 必要に応じて開催

企画委員会 4 回開催

アドバイザリーボード 1 回開催

⑥現場研修会 2 回開催

開催日 :2019 年 4～9 月、2020 年 3 月予定

見学先 :調整中

参加予定人員:安全工学会の会員 各回 20～30 名

その他未定

以上

2019年度の活動計画

六つの論点・要点

- ★教育
- ★Visionの見直&設定の仕組
- ★研究会・研究部会の企画
- ★防災と安全工学
- ★化学プロセス安全
- ★学会収支（社会貢献）

VisionとMission

- ★10年後の社会とは（調査）
- ★学会の10年後のVisionとは
- ★Visionを踏まえたMissionとは
- ★Missionを実行するStrategyは

会議体
などからの
論点・要点

調和
&
優先順位

研究部会・
研究会、他

MissionとStrategy

- ★マイルストーンの検討
 - ・重要度と難度（実現可能性）
 - ・優先順位
- ★仕組みと組織
- ★時間軸の組み入れ
- ★Strategyと実行

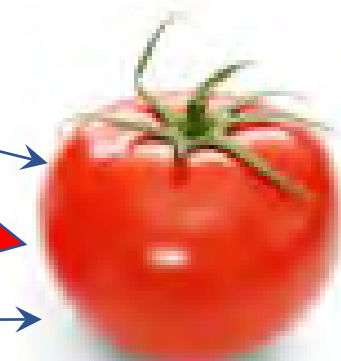
企画委員会・学術委員会
編集委員会
総務委員会

普及委員会

学術委員会

2019

2030



成果の果実
(社会への還元)

Top Down

Bottom Up

学会員の方々から湧き出るテーマの“芽”

安全工学会 会員の方々